

Emmenez-moi (世界の果てまで)

Ch.Aznavour

訳詩:Junko Higasa 2010.12.30 Thu.)

ドックで
背中を
かがめて
毎日僕が担ぐ
荷物は
南の国から青空の反射と
甘い香りと幻を運んでくる
僕は生まれながらに
灰色の北の空しか
見たことがないけれど
この海の
向こうの
国には
輝いた自由が
あるのだろう

世界の
果てまでも
乗せて行っておくれよ
貧しさから抜け出せる
陽のあたる場所へ

日が暮れて酒場で
一緒に
語り合う船乗りの
話しは
いつの間にか
僕の心を
暖かい南の島へと運んでしまう
そこで僕は差しのべられた
信じられない
愛の手を
抱きしめる
夜が明けて
酒場が閉まれば
またいつもの港で夢を見る

世界の
果てまでも
乗せて行っておくれよ
貧しさから抜け出せる
陽のあたる場所へ

いつの日か小さな
船でも
船乗りになるために
働こう
子供の頃から憧れていた
幸せな暮らしを手に入れて
生きるために
娘たちの熱い思いの中から
運命の人を
見つけ出すために
今までの全てを
捨て去り
胸を張り自由に
歩き出そう

世界の
果てまでも
乗せていっておくれよ
貧しさから抜け出せる
陽のあたる場所へ

世界の
果てまでも
乗せていっておくれよ
貧しさから抜け出せる
陽のあたる場所へ